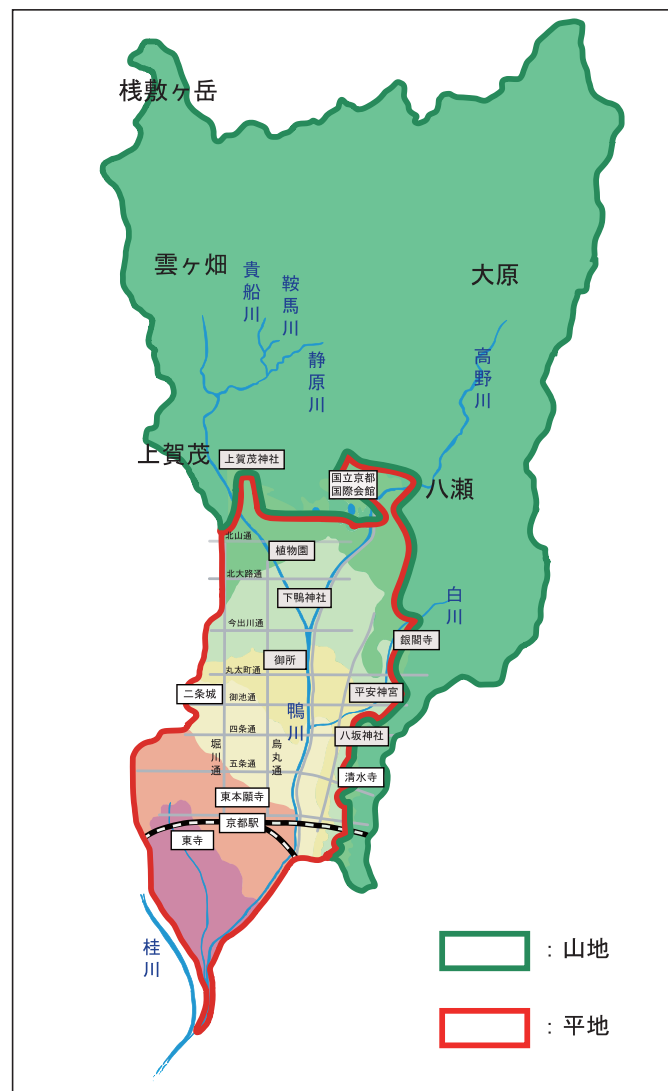


鴨川のようすをみてみよう

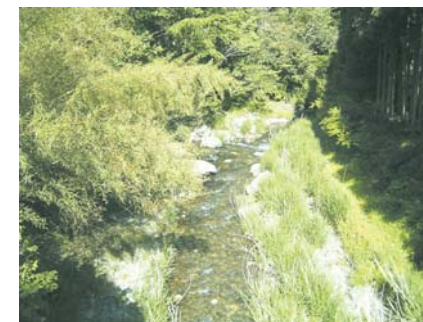
鴨川は、京都の北にある^{さじきがだけ} 棧敷ヶ岳をみなもととし、^{しがいち} 京都の市街地を北から南に向かつて流れたのち、^{かつらがわ} 桂川に注ぐ、^{りゅういき} 流域^{*1}面積207.7 km²、長さ約33 kmの^{かせん} 河川です。

上流では山地の谷あい流れ、平地に入ると^{まわ} 周りの土地より低いところを流れ、そして、^{しちじょう} 七条大橋から下流では^{きず} 両岸に築かれた^{ていぼう} 堤防の中を流れます。このように^{すがた} 鴨川の姿は、上流、中流、下流で大きく変化していきます。



鴨川的位置

また、その^{りゅういき} 流域の約70%を山地が占め、残りの約30%は、鴨川などの河川のはん^{らん} 濫によってつくられた^{せんじょうち} 扇状地です。この扇状地に^{せんじょうち} 京都の市街地が広がっています。



上流の様子(雲ヶ畑)

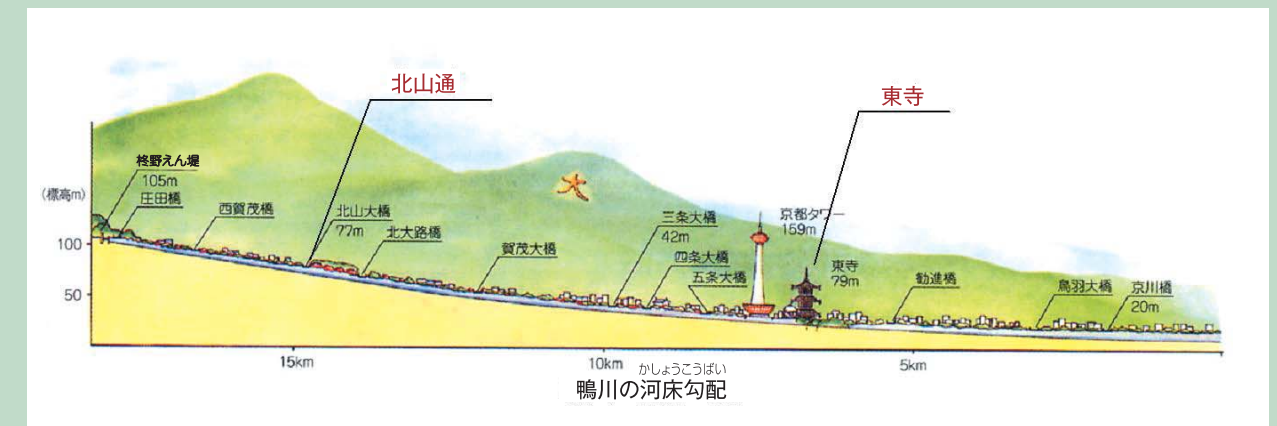


中流の様子(三条大橋付近)



下流の様子(新大宮橋付近)

鴨川の流れと京都の地形



鴨川の^{こうばい} 勾配は、平均すると約200分の1 (200m歩いたら1m登る) であり、^{かつらがわ} 桂川(約800分の1)、^{うじがわ} 宇治川(約1200分の1)、^{きづがわ} 木津川(約1100分の1)などと比較して急な勾配となっています。
^{とうじ} 東寺の五重の塔(高さ約57m)の頂上が、^{とうじ} 東寺から約8km上流にある北山通りの高さと同様であることからわかるように、^{こうばい} 京都のまちを南北に流れる鴨川の勾配は急となっています。

鴨川の名前の由来

鴨川の名前の由来にはいくつかの説がありますが、^{ぞうえい} 平安京造営の前から、そのほとりに住んでいた「賀茂氏」に由来しているという考え方が一般的です。^{かみがも} 賀茂氏の氏神をまつる^{かみがも} 上賀茂神社と^{しもがも} 出町付近の^{かみがも} 下鴨神社にちなんで高野川合流点より上流を「賀茂川」、下流を「鴨川」と書かれることが多いようです。

^{りゅういき} ※1 流域…川に流れ込む雨の降る区域のこと。
 たとえば、^{かみがも} 上賀茂に降った雨は鴨川に流れ込みますから、上賀茂は鴨川の流域に含まれます。一方、^{やましな} 山科に降った雨は山科川を通して^{うじがわ} 宇治川へ流れ込みますから、山科は宇治川の流域に含まれます。